

パブリック・サービス研究分科会 図書館評価グループ研究活動報告

研究年月日： 11月13日 13時～14時30分

場 所： 慶應義塾大学三田メディアセンター地下1階AVホール

出席者： 千家(國學院大學)、東家(上智大学)、小松(東京家政学院大学)、
椎名(明治学院大学)、二塚(国立音楽大学)、田邊(国士館大学)、
阿部(清泉女子大学)

記 録： 阿部

討 議 内 容：

1、記録について

図書館評価グループ研究活動報告の記録は次の通り氏名の50音順とする。

阿部、小松、椎名、千家、田邊、東家、二塚

2、グループ研究活動の進め方について

前回各自の課題であった資料収集と文献を読むことについて報告があった。
すでにグループ間でメール等により紹介した資料は下記の通りである。

1) 図書「図書館の経営評価」(日本図書館情報学会研究委員会編)

“大学図書館の経営計画と「顧客評価」(永田治樹)”

“アウトカム指標を中心とした図書館パフォーマンス指標の類型と活用
(糸賀雅児)”

“顧客満足度及びアウトカム測定の試み(戸田あきら)”

2) 雑誌「現代の図書館」“特集：自己評価の方法”38(1).2000

3) 雑誌「現代の図書館」“特集：図書館の統計と規格”36(3).1998

4) 雑誌「情報の科学と技術」“特集：図書館の評価”44(6)(1994)

5) 雑誌「情報の科学と技術」“特集：図書館評価：パフォーマンス指標と統計”56(7)
(2006)

6) 雑誌「情報の科学と技術」“図書館のマーケティング”1999(2)

7) 雑誌「情報の科学と技術」“図書館の生き残り作戦”2000(6)

8) 雑誌「情報の科学と技術」“特集：図書館の統計と評価”2001(6)

9) 雑誌「情報の科学と技術」“特集：図書館システムと評価”2002(9)

10) 雑誌「情報の科学と技術」“特集：図書館サービス評価とE-metrics”2004(4)

11) 雑誌論文『図書館・情報学研究入門』(三田図書館・情報学会,2005)

12) Web上の資料

・CA1581 (No.286) - 研究文献レビュー：図書館の経営評価に関する日本国内の研究動向
/ 倉橋英逸

<http://www.dap.ndl.go.jp/ca/modules/ca/item.php?itemid=1013>

・その他カレントアウェアネスの記事

<http://www.dap.ndl.go.jp/ca/modules/tinyd0/index.php?kwd=123&frag=1>

・ 図書館経営の評価 / 岸田和明

(日本図書館協会中堅職員ステップアップ研修資料)

<http://www.jla.or.jp/kenshu/resume2004-2/6.kishida.pdf>

以上の文献以外にも多数の文献があることから、今後の研究活動の進め方や方向性により絞込みの必要があるとの提案があり、次のような意見が出た。

- ・ 来年 12 月の研究報告発表に向けて、研究目的をある程度明確にし、それにより文献の選択をして行くべきである
- ・ グループメンバー各自の知識を増やし高める必要がある
- ・ 目的の設定をし、評価シートの作成をする
- ・ 文献は、パブリックサービスに関するものにする
- ・ 図書館経営評価等の背景的な文献ははぶく
- ・ 学生対象のアンケートを実施する
- ・ 利用者（学生）との話し合いの場を設定する
- ・ ISO 中の利用者満足度指標を使用し質問紙を作成する（「現代の図書館」vol.40、No.3,2002 参照）
- ・ ISO の各項目を検討し選択する
- ・ 「私立大学図書館自己点検・評価手法ガイドライン」(1999 私立大学図書館協会)を参考にし、項目を選択する
 - * 慶応大学図書館で検索したがなかったため、加藤氏に依頼したところ当グループへ提供していただくことになった。
- ・ 他大学との比較を行うべきかどうか
- ・ 図書館評価をして利用者に還元できるかどうか

次回は、合宿で提出した統計を基に実際に数字を出すことになった。

12月11日までに雑誌「現代の図書館」“特集：図書館の統計と規格”36(3)、1998、雑誌「情報の科学と技術」“特集：図書館評価：パフォーマンス指標と統計”56(7)(2006)を読むことを必須課題とし、より参考になる資料があればグループ間でメール連絡することとなった。また、調査希望の項目があれば連絡し合う。

以上